

知床登山も本格的シーズン迎える！

～ 羅臼岳山開き～

知床連山最高峰を誇る羅臼岳（1,661m）の山開きが7月2日（日）に行われました。当日はこれ以上ないという快晴にも恵まれ、絶好の山開き日和のなか、斜里側登山口において早朝6時より地元観光協会や山岳会、関係行政機関等の関係者出席の下、安全祈願祭が執り行われました。



遠くに見えるのはオホーツク海

今年春先の低温続きで例年より雪渓が多く残っており、5月の下旬には遭難騒ぎも発生しています。

例年1万人近くが登る全国的にも人気の山ですが、今年も無事故でシーズンを終えたいものです。それにしても当日は年配方、特に女性の登山者が多く目立ちました。羅臼岳までは往復で大体8～10時間はかかるのですが、中高年の登山ブームはまだまだ続いているようです。



安全祈願祭の様子

知床の樹木(その1)

トドマツ(マツ科・モミ属)

名前はアイヌ語の「トトロップ」が訛って変わったものです。日本では北海道のみに分布し、代表的な人工造林樹種となっています。高さは約25～30m、太さは60～100cmになる常緑針葉樹です。

針葉は柔らかく光沢のある緑色で、裏に白い気孔線（酸素や二酸化炭素などの通路となる「気孔」がたくさん並んでいる場所。）があり、先は2つに分かれます。枝は水平かやや斜上し、樹皮は灰白色をしていてなめらかです。これらは、葉の先は尖り、枝先は斜め下に下がり、樹皮は黒っぽくウロコ状であるエゾマツとの見分けるときのポイントになります。球果（松ぼっくり）は上向きにつき、バラバラになってタネを飛ばすので、松ぼっくり状で落ちているのを見ることがめったにありません。



利用面では、公園樹・盆栽、材は、建築・器具・パルプなどがあげられます。また、冬に知床の山を歩いていると、雪の上に、ところどころ葉が食べられた小枝や、ギザギザの歯形のついた葉が散らばっていることがあります。これはエゾモンガがトドマツの葉を食べた痕です。モミのない北海道ではクリスマスツリーにも使われており、知床森林センターでも毎年行われているクリスマスリース作りで、トドマツの枝を使用しています。（今年は11月19日（日）開催予定です。）

トドマツは、樹木内の水分が凍ることで起きる「凍裂」が多く発生します。



平成18年7月発行 第102号

(写真：シャクナゲ)

北海道森林管理局 知床森林センター
〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地
電話 0152-23-3009 FAX 0152-23-3160
ホームページ <http://www.shiretoko.go.jp/>



知床は今



羅臼湖までの散策路上に残る雪渓

先日、イベントの踏査で羅臼湖に行った時も、斜里側は雲のない快晴で「今日はきれいな羅臼湖が期待できる」と楽しみにしていたのですが、峠を越えると羅臼側は霧で周りが全然見えない状態となりました。幸い、羅臼湖につく頃には霧が晴れ、羅臼湖の全貌と知西別岳を見ることができましたが、雪渓の残るこの時期は散策路が雪の下に隠れている部分もあるため、霧で視界が利かない時は道迷いの恐れがあります。最近来訪者の増えている羅臼湖ですが、気軽な装備では思わぬ事故を引き起こしかねません。雪の残るこの時期はきちんとした装備で現地に詳しい人と一緒に行動する必要があります。

この時期、知床では連山を挟んで斜里側と羅臼側で全く異なる天候を見ることが出来ます。斜里側は雲一つ無い快晴で日差しがまぶしいのに、横断道路を羅臼側に下るといきなり霧が立ちこめて肌寒いぐらいだったりします。これは太平洋から流れてくる霧が知床連山でせき止められることから起きる現象で、知床の気象の大きな特徴と言えます。山の天気は変わりやすいとよく言われますが、知床峠で羅臼岳を眺めていると霧が山頂を覆う様子が刻一刻と変化するのがよくわかります。



知西別岳と羅臼湖



ギンザンマシコ

とはいえ、今の時期の羅臼湖周辺はダケカンバやケヤマハンノキが芽吹き、足元にはゴゼンタチバナやミツバオウレンといった高山植物のきれいな花が咲くなど、初夏の様相を見せる下界とはうってかわった遅い春を楽しむことが出来ます。先日は、ハイマツ林に珍しい赤色の鳥「ギンザンマシコ」を見ることが出来ました。この鳥は雄がきれいな赤色をしており亜寒帯の高い山地で見ることが出来ます。人間にとってきれいな景色は鳥たちにとっても楽園のようです。いつでもこの環境が残るよう、マナーを守って楽しみたいですね。

第62回 森とのふれあい

『初夏の知床の森で地球温暖化について考えよう』を開催 ～炭焼きと幻の沼「ボンホロ沼」で自然散策～

6月19日(日)に第62回森とのふれあい『初夏の知床の森で地球温暖化について考えよう』を開催し、北見や網走から21名が参加しました。このイベントは炭焼き体験と森林散策を通じて地球温暖化について改めて考えてみよう企画したもので、ここ数年の恒例イベントとなっています。

当日は、前日までの雨も上がり、穏やかな天気の中、午前中に知床森林センター敷地内に設置したドラム缶型の簡易炭窯で炭焼き体験を行い、午後はウトロ国有林で世界自然遺産区域でもある自然観察教育林へ向かい、ボンホロ沼周辺の森林を散策しました。



原木を切っています

まず炭焼きでは、ノコギリでミズナラやダケカンバ等の原木を切るところから始めました。今回の原木は、林道に覆い被さるなどして林道管理に支障となった木を使っています。参加者の中には、むかし薪作りで木を切った事のある手慣れた方もいましたが、多くの方は汗をかきかきノコギリを動かしていました。

次に窯に隙間無く原木を詰めて窯口を粘土で塞ぐ作業を行いました。粘土をこねる時、皆さん子供の頃以来の泥遊びを楽しんでいるようでした。

そして、火起こし道具で火種を作り挑戦しました。なかなかコツがつかめず苦戦しましたが、なんとか火種ができ、木くずに移して大きな炎があがった瞬間に歓声が上がりました。原木に火がつくまで交替で約30分、ウチワで扇ぎ続けやと煙突から白い煙がモクモクと出てきた時には皆さん満足そうな笑顔を見せていました。



火を起こしています

最後に炭や木酢液について土壌改良や水質浄化、消臭効果があることや、木を炭として有効活用することで地球温暖化防止にも貢献できること等をお話し、予め焼いておいた炭を皆さんに持ち帰ってもらいました。参加者の方々からは実際に炭の用途を試してみますとの声がありました。



窯を開けた様子

午後からは場所を移してウトロ国有林にある自然観察教育林で、雪融け水が溜まって春先だけに見られるボンホロ沼とその周辺の森林散策を行いました。遺産区域であると共に知床森林生態系保護地域内でもあるこの森には大小様々な木々が鬱蒼と茂り、原生的な雰囲気漂うなか、参加者の方々にはミズナラ、イタヤカエデの名前の由来や、森林が二酸化炭素を吸収し、地球温暖化防止に貢献していることなどの説明に耳を傾けていました。



沼をバックに集合写真

途中では樹齢400年とも言われるミズナラの大木の太さを巻き尺を使って測ったほか、トドマツの幹に残るヒグマの爪痕や、クマガラの食痕、エゾシカの樹皮食害などを観察することが出来、森林の中で生育する野生生物の息吹を感じて頂きました。

この時期のボンホロ沼は融雪水を一杯にため、沼越しに青空に映えた羅臼岳を見ることが出来、皆さん感激していました。



樹木を観察しています

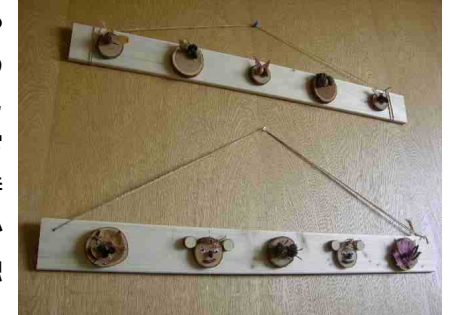
「お母さんを対象とした木工教室」を開催



木工教室の様子

冒頭、職員から道具の使い方や製作の手順などの説明を受け、見本や作品例などを参考に木の枝やドングリなどの材料選びに取りかかったのですが、皆さんノコやハサミを上手に扱って、見る見るうちに昆虫や人形、写真立てや壁掛けの飾りなどが出来上がっていきました。作業時間は1時間半と少し短めで物足りなさそうでしたが、子育てからのつかの間の解放を十分楽しまれた様子で、自然の恵みに触れてリフレッシュしたお母さん方の笑顔が印象的でした。

1、2歳の小さいお子さんを持つお母さん方は子育てにかかりきりで、当センターのイベント参加の対象になりづらいのですが、今回は斜里町子育て支援センターからの申し出に協力する形で、お母さんの気分転換を図るための木工教室を6月28日(水)に開催しました。当センターでは初の企画になります。参加者は、斜里町在住の小さいお子さんをお持ちのお母さん方計18名で、皆さん当日は子育て支援センターに子供を預けた後、会場となる知床森林センター2階に集まりました。



出来上がった作品

第52回森林技術コンテスト

「日本森林技術協会理事長賞」を受賞

5月22日(月)に東京四谷の日本森林技術協会で第52回森林技術コンテストが開催され、全国の林業関係団体から10件の発表が行われました。当センターからは「知床半島におけるミズナラの堅果結実調査について」と題した発表を谷本所長と清水緑化第二係長から行いました。発表の中では過去17年間の堅果(ドングリ)の豊凶の動向について報告したのですが、中でも凶作がヒグマの行動に与える影響についての考察が審査員の方からの高い注目を集め、結果「日本森林技術協会理事長賞」を受賞することが出来ました。これを励みに今後もデータを積み重ね、知床の自然を評価する指標の一つを提供したいと思います。



発表の様子

カムイワッカ方面の交通規制及び立入規制について

カムイワッカ方面については、昨年に引き続き落石防止工事のため、通年一般車両等の通行はできませんが、7月13日(木)から9月20日(木)に限りシャトルバスが運行されます。

なお、平成18年度のカムイワッカ湯の滝への立ち入りについては、落石の危険があることから、通称「一の滝」までしか行くことが出来ません。二の滝から上流域は立入禁止となっておりますので、皆様のご理解とご協力を宜しくお願いします。(図は交通規制区間)

